

二条中学校便り

第 5 号

平成 18 年 6 月 9 日

京都市立二条中学校

年度初めての定期テスト終了～次のステップへ～



今週は 30 度を超える真夏日が続き、季節が夏に変わったことを感じています。体調の管理も試験対策の重要なポイントだったようですが、昨日と今日で前期中間テストが終了しました。1 年生は初めての中学校の定期テストをどのように体験しましたか？3 年生は第 1 回学習確認プログラムと続けての試練でしたが、一人ひとりの進路を意識した取組ができたでしょうか。

テストは結果の点数だけに一喜一憂するのではなく、一つの学習の節目として振り返り、次の大きなステップへとつなげる作業です。各教科の先生からの解説を聞き、見直しをしっかりと、自らの学習を評価してみましよう。「こんな方法でやっていけばいいんだな」自分の学習スタイルを実感することは、自信をもち新しい学習への意欲にもなります。

17日「休日参観」たくさんのご来校をお待ちしています



6 月 17 日(土)は年に一度の休日参観です。それぞれの学年で充実した生活を送っているこのごろ。是非、ご家庭や地域、寮の先生方など多数そろってご来校いただき、授業や部活など、生徒達の活動をごらんになり温かなお声かけをくださいますよう、お願いいたします。

9 時から 2 時間の授業の後、午前中は各学年の懇談会です。1 年は「花背宿泊体験学習」の報告を中心に、2 年は校外学習をふり返り今後の総合的な学習の時間などにも話題を広げ 3 年は「修学旅行」の総括と進路の情報など幅広く計画しています。その後、午後は部活動などの見学なども行います。午後 1 時から 4 組合同保護者会が開かれます。

6月は公開授業月間

今月は全ての教科担当者が、お互いの授業を公開し「よりよい授業、わかりやすい授業」をめざし研究を深める期間です。授業は教師と生徒のお互いが近づき、高めあえる知の喜びを味わう時間。教師の「学び」も深める契機にしたいと思います。

13年 学年弁論大会
5月26日(1年)6月12日(3年)と、それぞれの学年で宿泊体験学習や修学旅行を素材にした学年弁論大会が行われます。国語科の学習と総合的な学習の時間とが連携し、各学級から選ばれた数人が大勢の前で堂々と自分の意見を発表します。
個性あふれ、若い感動をしっかりと自分の言葉で発表をする生徒達、また真剣に共感しながら聞く生徒達にエールを送ります。

不審者侵入！迫力の避難訓練と自転車教室

5月31日午後「西門から校内に刃物を持った不審者が侵入した」という設定で、今年度初めての避難訓練が行われました。PTA 校外補導委員会との共催行事です。S先生が扮する不審者にT・I・M先生がさすまたをもって取り押さえにかかります。緊急放送が流れ、全生徒は速やかに講堂に避難しました。

～ 校長の講話の一部です～

初動(初めの動き)の時点で、不審者の様子をあわてずに観察できましたか。緊急時に不審者の様子を冷静に観察することは大変難しいことですが、必要なことです。

次に、不審者に危害を加えられないようにするために、自分はどのように行動すればいいかを考えられましたか。このことも大変難しいことですが、基本的に自分の身は自分で守るのだという意識は必要です。

三つ目は、皆さん方は先生の指示をよく聞いて、その指示通り迅速に行動できましたか。このことは不測の事態が発生した場合に、皆さん方がパニック状態に陥らないようにするためには、指示を出す先生の役割が重要であると同時に、その指示通り行動できる皆さん方の態度が必要であることを意味します。

その後、西陣警察署から交通巡視員の係長他3名の方から、中学生の身近な問題である「自転車の安全な利用」について、たくさんの映像や資料をもとにお話をお聞きしました。本校の地域でも商店街や路地など自転車に乗る側が注意しなければいけない場面は多く、生徒達も真剣に聞き入っていました。

この集会の最後に西陣署交通課長から「命」についてのお話をされました。中学生に深く感銘を与えていただいたと思います。ありがとうございました。

命とは、何でしょう。ある辞書を引くと「息(い)の霊(ち)」と書いてありました。「呼吸をしている。霊・魂が体に宿っている。」ということです。「命の次に大切なもの・命あつての物種・命に替えても」等最も大切なものとして会話の中で使っています。私はこれまで、交通事故で命を落とした人をたくさん見てきました。救急車で病院に運び「死亡確認」をした後、警察署に遺体を運びます。原因を調べるために「検死」という捜査を行います。亡骸に手を触れるとほんの今先まで生暖かかったはずの体がヒンヤリとしています。生まれてから一度も休むことなく動いていた心臓が、体の隅々まで行き渡っていた血液の流れが止まった証拠です。

特に幼い子供や皆さんのような若い人が命を落とす交通事故では辛い思いをします。遺体安置所に駆けつけたお母さんやお父さんのやりきれない姿を見るのは、仕事とはいえ本当に辛いことです。お母さんは我が子の亡骸にすがりつき、子供の顔や胸に頬ずりをして泣き叫んでいます。その側でお父さんが拳を握りしめ体を小刻みに震わせながらこらえています。頬を涙が伝っています。この時お母さんやお父さんの頭の中は、心の中は、何を思うのでしょうか。この子が生まれ、「お母さんからお乳をもらっているときのこと、初めて声を出して笑ったときのこと、初めて「パパ、ママ」と呼んでくれたこと、「あのね、お母さん、お父さん。」と相談してくれたこと」ここにいる皆さんが「なんだそんなこと」と思うようなことでも親子の大切な思い出として頭の中に浮かんで消え、消えては浮かびしているのだと思います。

皆さんは、そんなお母さんやお父さんに、大切に育てられ、見守られている、学校に通わせてもらっているという感謝の気持ちを忘れてはいけません。親孝行を表現する方法はたくさんありますが、一番簡単で一番喜ばれる親孝行は「自分の命を大切にすること」です。親より先に死んではいけません。～ ルールを守って、自分の命、他人の命を大切に～学校の勉強もしっかり、命を大切にすることを勉強もしっかりやって、立派な大人になって下さい。

